

東京都ミニラグビー交流大会サイレントマナーの試行について

2022年10月8日

東京都ラグビースクール校長会議（ミニ部門）は9月10日、以下の「都大会サイレントマナー」（※「ルール」と呼ばない）を今年10月から来年3月まで半年間、都大会せいび山シリーズ（杉並区の済美山運動場で開催する）で試行することを決めた。

1. 東京都ミニラグビー交流大会では、すべての大人が①拍手②指示のニュアンスが無い歓声③選手の名前を呼ぶ④「ナイス」や「グッド」が付く、ほめる発言はしてよい
2. ただし、上記マナーの網をかいくぐるような「ナイス・ノッコン」など心無い嫌味発言が出ないようにすべての大人に周知徹底することを、各スクールに義務付ける
3. 大人は試合中に口を挟まないが、試合と試合の合間に助言や建設的な指導は可能
4. 両チームのベンチをタッチライン沿いではなく、インゴールの後ろに設定し、交代指示者を含むコーチは負傷者の救護などを除き全員、ベンチ内を出てはならない
5. タッチライン沿いにいてよいのは、①タッチジャッジ②ウォーター1～2人③セーフティーアシスタント1人④動画撮影係1人⑤静止画撮影係1人のみ。いずれも選手への指示や応援はできない。いずれもコーチの服装をしているか、（保護者に依頼した場合は）そろいのビブスを着用して一般の保護者と一目で見分けられること。

※ベンチの設定位置の一例



<試行に至る経緯>

2022年5月15日のオンライン東京都ラグビースクール校長会議（ミニ部門）で、ルール・レフリング小委員会から「コーチによる『レフリーの判定への異議』『プレーヤーへの過剰な声かけ』」に対する問題提起があった。

これに対し、八王子RS、R&Bラグビークラブ、江戸川区RSの事例の紹介があった。「試合中は大人は黙る」「拍手のみ」に対し、「前向きな『ナイスタックル!』」などの声掛けも、「ダメなのか?」などの異論も出た。「線引きが難しい。前向きな声掛けを認めると、いつしか後ろ向きな声掛けに変質しかねない」という声も出た。高校生の試合で観客席からよく聞こえる、母親たちの「止めて〜!」「タックルして〜!」はプラス志向の声援か? では、父親たちの「タックルしろ」「タックルせんかい」は、マイナス志向の声援か? 確かに、線引きが難しい。となると「拍手だけ」に落ち着くのか?

7月10日の都大会せいび山シリーズは八王子▽多摩▽西東京▽杉並少年の4スクールで開催予定。議長スクールであり、従来からコーチの過剰な声かけ対策に取り組んできた八王子RSが参加するこの日に、テストケースとして実施する。多くのスクールが参加する日にいきなりテストするよりも、やりやすい。

<実施方法>

具体的には3～6年を対象に

- ・「両チームのベンチをタッチライン沿いではなく、インゴールの後ろに設定し、コーチはベンチ内にいる」ことで、物理的に大人の声が届きにくくする
- ・タッチライン沿いにおいてよいのは、タッチジャッジ以外に①ウォーター1～2人②セーフティーアシスタント1人③動画撮影係1人④静止画撮影係1人のみ。いずれもコーチの服装をしているか、(保護者に依頼した場合は)そろいのビブスを着用して一般の保護者と一目で見分けられること
- ・大人の発言自体を(前向きな声援でも)制限し、観客も含めて拍手のみとする
- ・大人は試合中に口を挟まないが、試合と試合の合間に助言や建設的な指導は可能

タッチライン沿いにおいてよい人数を制限するのは、今年7月1日から実施される新たな世界的試験実施ルール「(b) メディカル、テクニカルゾーン、および、ウォーターキャリアーのプロトコルを改正し、世界的試験実施ルールとする」の趣旨を踏まえた。

<https://www.rugby-japan.jp/news/2022/06/11/51345>

ミニラグビーは観客席(スタンド)が無い会場が多い。タッチライン沿いにコーチが多くと、大会要項や注意事項を読まないまま来場した保護者がコーチに紛れて観戦を始める。「保護者観戦エリア」を正直に守って見ている他の保護者に対し不公平なので移動を求めているが、保護者を注意する行為が都大会小委員会の心理的負担になっているので、タッチライン沿いの人数を最小限にしてすっきりさせる。

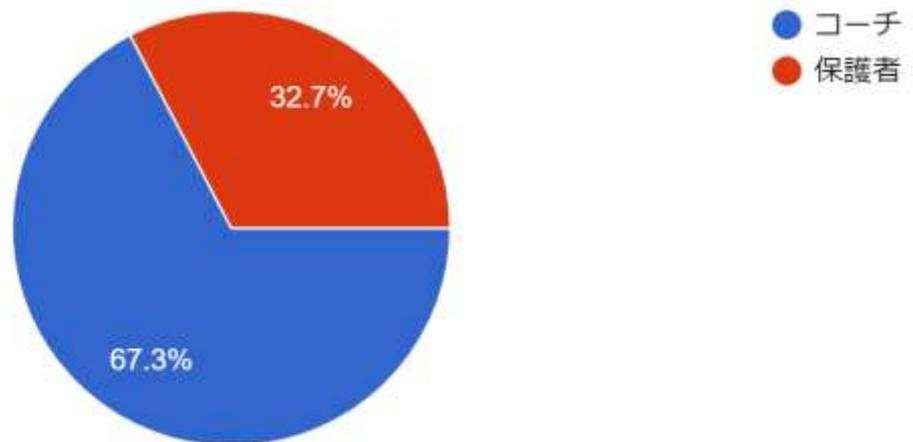
<「大人が黙る」東京都ミニラグビー交流大会アンケート結果>

2022年7月10日の東京都ミニラグビー交流大会せいび山シリーズ(八王子▽多摩▽西東京▽杉並少年の4スクールの3～6年生が出場)を、「大人の発言自体を(前向きな声援でも)制限し、観客も含めて拍手のみ」というルールで試験的に実施した。大会終

了後から7月31日まで、4スクールのコーチと保護者を対象にアンケートを実施し、49件の有効回答があった。

質問1. あなたはコーチですか？ 保護者ですか？

49件の回答



質問2. 大人が黙るサイレント都大会に参加して、どんなことにプラス面を感じましたか？（自由回答）

【6年コーチ】

- ・子供同士の声かけが増えた
- ・子供たちが自分たちで考えるしかない状況を試合で経験できるという点。
- ・子供達の会話が増えた様に思えた
- ・主体的に声(チームに対するコミュニケーション)を出している子供がいた。また、その声をコーチとして聞くことができ、指導につながれると感じた。
- ・子ども同士のコミュニケーションが活発になった
- ・子どもたちが声を出すことに集中していた様に感じたこと。

【5年コーチ】

- ・子供達の声が良く聞こえる
- ・コーチが指示出しをせず、子供がのびのび自分で考えてプレーできる
- ・オーバーコーチングに対して一定の規制が出来た
- ・やじが飛ばなかったことだけ。あとはプラス面を感じない
- ・選手達がプレーに集中出来る

【4年コーチ】

- ・子供たちが指示待ちではなく主体的にプレーすることができる。
- ・子どもの自主性や子ども同士の協力など
- ・怒鳴ったりする人がいなくて良かった
- ・子供達のコーリングの声が良く聞こえた事や、子供達が自分達で考えてプレーする事がみれ素晴らしいプレーも沢山ありました。
- ・コーチ目線ではベンチにいる選手からの声が良い聞こえて効果的と思いました。
- ・子供達の会話がよく聞こえる。いつもはミスが起きた際、フォローする掛け声は大人から出るが、サイレントにする事で、子供から出る様になった。などなど。
- ・子供達の自立心育成
- ・子供達が自ら考えて伸び伸びと試合していた。また、試合後の振り返りでは、多くの子供達から意見がでていた。
- ・やじなどがなくなる
- ・否定する言葉が聞こえなかったこと
- ・目的としては異論ないが、準備なくサイレント実施に対してはプラス面なし。

【3年コーチ】

- ・子供達の自主性を育てる事
- ・交代選手達に声を出してもらおう事で、子供達が試合を見るようになったと思う。
- ・子どもたちが声を出していないことに気付かされました。今後の練習ではコミュニケーションのとり方を取り入れようと思います。
- ・選手同士（たとえばセンターとウイングのポジションの子）がスクラム前に声を掛け合っていた。サイレントでないと、大人が先回りして言っていたかも、という場面。よかったと思います。
- ・「今から行うべきプレー」について大人からの声がかからなかったことで、子供たちが自分たちで考え、互いに声を掛け合うことにつながったと思う。2~3試合経ってからは特にそうだった。
- ・子供たちの自主性を育めること。怒声、罵声が無くなること。

【コーチ（担当学年不明）】

- ・子供達同士のコミュニケーションが増えていたように感じた。

【6年保護者】

- ・子供が自分の動きを考える機会が増える

【5年保護者】

- ・子供達が大人の指示に頼らず、自ら考えチーム内で意思疎通していく訓練になる。スクールによっては必要以上に大声を張り上げる保護者やレフリーへの不満を発する保護者や指導者がおり、またスクール生に対しても恫喝ととれる罵声で統率をとろうと勘違いをしている指導者がおり、予てより不快に感じていた処なので非常にいい取組みだと思います。
- ・選手たちが考えて、積極的に声を出してプレーをしていたように見えました。
- ・指示し過ぎたり、過度なプレッシャーがコーチや保護者から出ていなかったようにも感じるので、子供にとってはのびのびできたのではないかと思う。
- ・子供たち同士で声を掛け合って、集中して試合に臨んでいるように見えました。
- ・スクール生の主体性が伸長される

【4年保護者】

- ・嫌な気持ちになるような他チームからの大声を聞く回数が減った。
- ・子供達が自分達で考えて声掛け出来るようになるのが良い。やる気を失うような大人からの注意が無いのが良かった。
- ・子供の自発的な行動が見られた。
- ・大人のネガティブな発言が聞こえないこと。
- ・こどもの選手たちが、どんな声かけをしながら試合をしているか、選手たちが自ら考えて試合運びをどう進めるかを確認できた

【3年保護者】

- ・子どもが自分で考えるようになる。
- ・こどもたちの声がよく聞こえた
- ・子供たち同士で試合中に話す場面が増えたこと。
- ・主催者にとって保護者観戦の環境を整えやすくなるのであれば甘んじてルールを受け入れる用意があります（※注：「主催者にとって保護者観戦の環境を整えやすくなる」は、コロナによる無観客試合から有観客試合への移行を指すとみられる）

質問3. どんなことにマイナス面を感じましたか？（自由回答）

【6年コーチ】

- ・良いプレーに対しても声かけできないため、子供達にいいプレーだということを理解させる機会が減った
- ・なかなか自分達ではまだ難しいことも多い。
- ・いいプレーに対する的確な評価の声かけができないこと。今のプレーはよかったのか、そうでないのか即時評価ができない。とくに下の学年には、他者からの評価が必要な場面があると思う。
- ・大会自体の盛り上がり感に少し物足りなさを感じたこと。

【5年コーチ】

- ・良いプレーでも褒める声かけが出来ない
- ・ポジティブな声かけまでできなくなる
- ・子供たちへのほめる応援が出来なかったこと
- ・良かったプレーに対して素直に褒め称えることが出来ない
- ・選手交代がやりにくい

【4年コーチ】

- ・大会の盛り上がり欠ける。指示は無いほうが良いが声援はあってもよいのでは。
- ・サイレントによって子供たちの自主性を促す意図は分かりますが、小学校中学年くらいはまだ経験の浅い子供たちには難しい。教えるためにコーチがいて、折角のゲームなのにもったいない。褒める機会も失われた。普段の練習でなかなか活躍できない子が果敢にタックルができた時、私は大きい声で褒めてやりたい。それが子供たちの成功体験になる。怒鳴る、レフリーに文句言うなどの的確な指導を混同しない方が良いです。
- ・普段の生活含め、練習から選手に意識させる必要があり、まだまだ時期尚早。選手が楽しくラグビーをすることが第一のため、あるべき論でサイレントを強制することは反対。但し、倫理に反する言動はチーム内でのマネジメントで管理すべき（できるはず）。
- ・怪我が疑われる時に声がけしづらい。
- ・良いプレーには自然と反応してしまいますので、それまでサイレントするのはやりにく

いです。体力的に厳しくなってくる試合で外から鼓舞出来ないのも、歯痒いです。

・流れが悪くなった際、子供達の気持ちを切り替えさせてあげる様な声かけができないため、悪いままになりがち。子供同士では、褒め合う声かけがあまり出ないため、良いプレーをしても、良かったのか悪かったのか認識できない子が多い。ポジティブな掛け声で、気持ちを盛り上げてあげる事ができない。

- ・活気の無さ
- ・歓声がないことで盛り上がり欠ける。
- ・大人達のストレス。声援もスポーツの醍醐味。
- ・コーチの指示があった方がよい
- ・良いプレーがわからないこと

【3年コーチ】

・自分がどう動いて良いか、まだわからない子供達がボーッとしてしまう場面も見て取れた。フィールドの子供達が声をかけてあげれば良いが、そこまでの余裕も無く、といった感じ

・中学年では、ポジショニングがわからない子、ルールがわかっていない子など、コーチが指示を出さないと動けない子がたくさんいます。コーチの指示がないとその子達は「試合にいただけ」になってしまうため、試合がつまらなくなるかもしれません。

・ナイスプレーに対して大人が声をかけることで、子供は自らのプレーに誇りを持つし、身体の動かし方の選択に自信を持つし、今後スキルを磨いてゆくモチベーションになる（子供は褒めて伸びる）と思う。そのタイミングは試合が終わってからよりも、プレー直後の方が効果的ははずである（試合後には別の形で褒めてあげたい）。それが禁じられたことがマイナス。

・良いプレーの後に、関わった選手たちへ声をかけてあげられなかったのが心苦しく思いました。

・ルールやポジショニングの理解が不十分な中学年(特に3年生)はスムーズに試合を進行できない場面がある。コーチや保護者の声援を感じ、前向きな力に変えてプレーする経験をさせてあげたい。

【コーチ(担当学年不明)】

・マイナスではないですが味気無い感じがしました。

・『大人が黙る』の呼称は如何なものかと。代案ありませんが、わだかまり感満載です。

・特に3年生はルールへの理解に個人差がまだあると思うので、ヘッドコーチに限りルール関係のアドバイスをできるといいのかもしれませんが。

【6年保護者】

・頑張っている選手に声援を送れない。

・どうしたらよかったのか分からない時に思考が停止してしまう。大人の一言があることで考えることの後押しになることもあるのかな？と。

【5年保護者】

・スクールは子供達がいかに楽しく前向きに取り組むかが重要なので、大人の指示まして罵声は一切必要なく、マイナス面はない。

・マイナスかどうかわかりませんが、大人が黙ることで選手たちのモチベーションに影響があるのかどうか、ナイスプレーの達成感など

・いいプレーをしたときにナイスプレーの声や落ち込んでいそうなときのドンマイなど

の励ましの声を出せないのは、かなりマイナス。子供は周囲の喜んでいる声を聞くことで精神的にも大きく成長すると思う。

- ・盛り上がりには欠けるところ。

【4年保護者】

- ・ナイスプレーをしても褒められないのが歯痒かった。サイレントなのに子供に指示を出しているコーチもいて、徹底されてなく残念だった。
- ・子どもたちが自分たちで考えて声出しができるように普段の練習からもしないと、試合では出来ないと思ったし実際出来ていなかったように思う。今後も機会を増やしていけば癖がつくかもしれないが、ただただ時間が来てタイムテーブルをこなしているような、一試合の印象が薄くなった気がします。
- ・ラグビー経験の少ない選手ほど、何を頑張れば良いか分からなくなった際に不安そうだった。
- ・選手達を声援で盛り上げられないこと。

【3年保護者】

- ・高学年になるまでラグビー理解度の個人差が激しいので、自主性を促しながらもサイレントでは無く直接指導をした方が理解度が高まると感じた。また命令や非難する言動は控えるべきだが、素晴らしいプレーに対しての声援は有るべきと考える。
- ・歓声や励ましの言葉などすべて禁止するのはどうかなと感じました。
- ・いいプレーの際の歓声やほめていいのかを迷った
- ・そもそも3年生は、ミニラグビーのルールなどを学んでいる段階なので、子供達だけでは戦術的なコミュニケーションが難しいこと。
- ・子供に声を届けたいと思う保護者は多いのではないか。子供も応援された記憶は一生残るのではないか。その機会が減るのは残念。

質問4-1. あなたのお子さんは、大人が黙るサイレントルールについて、どんな感想を話していましたか？（自由回答）

【6年】

- ・自分達で考えられるのはいい。
- ・いつもより声を出せた
- ・楽しかった
- ・トライを決めた後、特に声援が欲しかった
- ・いいプレーか悪いプレーかわからない
- ・グラウンドに入ったら、サイレントでもサイレントでなくても同じ。
- ・別にどっちでも良い。

【5年】

- ・チーム内でよく会話ができる反面、まだ何をいつ発すべきかわからず、チームが静かになる場面が多かった。
- ・元々コーチの声はほとんど届いていないので、余り変化は無かった。コーチが思っているほど普段の声も届いていない。
- ・「特に気にならなかった」

【4年】

- ・自分たちはコーリングが出来ていないと感じた。

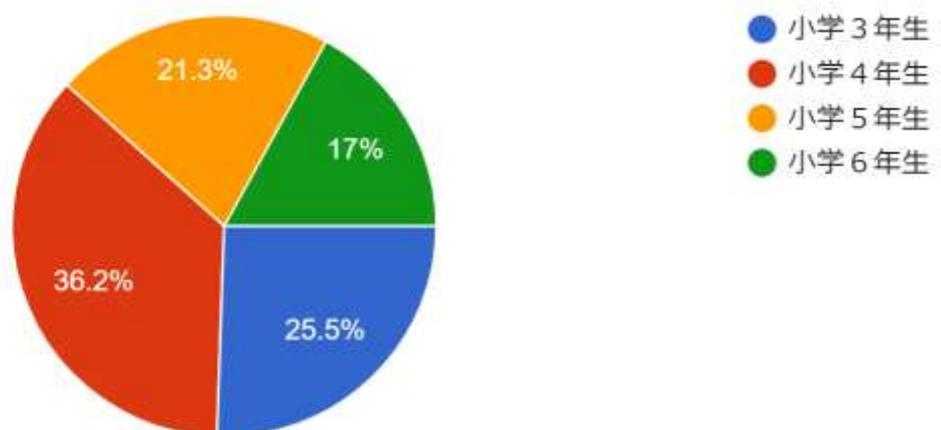
- ・自分達で考えないといけないので色々なプレーを考え、実行できた。ただ、声援がないのは寂しい。
- ・伸び伸びプレーできる面もあるが、声援がないのは寂しい。
- ・とても良かった。
- ・サイレントでもそうでなくてもプレイに集中していると、その差を感じない
- ・サイレントでもそうでなくても、どちらでも影響は感じない
- ・気にならなかった
- ・あまり気にしていない
- ・頑張った時（良いプレーをした時）は誉めて欲しい。
- ・大人の正しい声かけがほしい。応援がないと気持ちが盛り上がらない。子供が試合中に悪い言葉を使う使わないは、サイレントに関係なくあった。
- ・何をやればいいのかわからない選手に対しての声掛けは選手同士では難しい。コーチからの指示をしてほしい。試合を楽しみたい。

【3年】

- ・大人の指示は無くても大丈夫だけど、声援がないのは寂しかった。
- ・コーチの指示だけ無くして、応援だけして欲しい。
- ・自分たちの好きなようにプレーできる
- ・意外と変わらないと言っていました（苦笑）。普段から外から大人がかかる声を聞き流しているというか、耳に入っていないというのか・・・ただ、そこは個人差あると思います。（逆に、聞き流されていたという驚きと気づきがありました（涙））
- ・「もう少し、試合中にコーチから教えてほしかった。間違ったときとか、よかったときとか。」
- ・もっとプレー中に褒めて欲しかった。
- ・デビュー戦だったので意識していなかった。

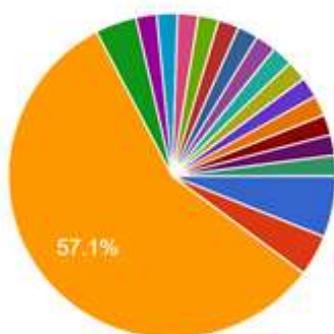
質問4-2. あなたのお子さんは、何年生ですか？

47件の回答



質問 5. 今後の都大会ルールは、どうあるべきだと思いますか？

49 件の回答



- 大人は拍手のみ
- 拍手に加え、指示のニュアンスが無い...
- 上記 2 項目に加え、「ナイス」や「グ...
- 従来通り、大人の応援・発言に制限を...
- 各チーム、各選手が大人な指示がなく...
- 子供が声出しができるような大人の応...
- コーチの指導について制限を設けるべ...
- ほめる発言はよいが、事前に徹底しな...

▲ 1/3 ▼

※選択肢

- ・大人は拍手のみ=6.1%
- ・拍手に加え、指示のニュアンスが無い歓声、選手の名前を呼ぶなどまでは認める=4.1%
- ・上記 2 項目に加え、「ナイス」や「グッド」が付く、ほめる発言はしてよい=57.1%
- ・従来通り、大人の応援・発言に制限を設ける必要は一切無い=4.1%
- ・その他=28.6%

※以下、自由回答のみ記載

【6年コーチ】

- ・拍手と褒める発言のみとする。
- ・盛り上がるという観点でママだけは声をだして応援しても良いのでは。

【4年コーチ】

- ・大人の指示がなくてもいい程度、各チーム、各選手がラグビーに理解があれば上記 3 項目 (=ほめる発言はしてよい) としても、選手は楽しく試合ができると思う
- ・コーチの指示のみ認める
- ・コーチの指導について制限を設けるべきではない。
- ・従来通り、大人の応援・発言に制限を設ける必要は一切無い

【3年コーチ】

- ・非難や命令などを一部制限を設ける。それ以外は制限無し。
- ・拍手のみか制限なしのいずれかです。どっちつかずのルールだと「違反者」が発生しトラブルのもととなります。私としては拍手のみでいいと思います。
- ・怒声、罵声、選手にとってマイナスとなるような発言を NG にすることには賛成ですが、前向きな声援や必要な指示まで制限するのはやりすぎかもしれないと感じました。サイレント大会には自主性を育めるというメリットもありますので、(毎回ではなく)年に何回かはあってもいいかもしれないと思いました。
- ・「ナイスタックル」「ナイスラン」「いいよー」+拍手 までですかね。名前が入ると結局指示が入ると思うので。
- ・試合中、プレーに対する大人からの指示は認めない。既に行われたプレーに対する、ほめる発言であれば認める。

【5年保護者】

- ・ほめる発言はよいが、事前に徹底して「なし崩し」とならないような仕組みが必要。

【4年保護者】

- ・子供が声出しができるような大人の応援や声掛けは良しとする。声出しが出来た子をしっかり褒めてあげることは良しとする、とか。
- ・レフリーに対する暴言、子供に対する叱責以外はしてよい。

【3年保護者】

- ・拍手とナイスプレーへの歓声はありがたいと思います

質問6. 公式戦ではないスクール同士の交流戦でも、サイレントルールを適用すべきだと思いますか？

49件の回答



※選択肢

- ・適用すべきだ=12.2%
- ・対戦するスクール同士の話し合いで、その都度決めるべきだ=71.4%
- ・その他=17.4%

<考察>

以上のアンケート結果から、大人も子どもも「サイレント」ルールに効果があると考える人が大半を占め、「従来通り、大人の応援・発言に制限を設ける必要は一切無い」と答えた大人は49人中わずか2人とどまった。

また、怒声、罵声が飛び交う現状に眉をひそめる大人も多いことが分かった。

その一方で、「拍手だけでは応援していて味気ない」「我が子をほめてあげたい」「よいプレーに対し、直後に『ナイス』『グッド』と言ってあげることで、自信につながる」という意見も真理を突いている。

幼児や低学年のラグビーでは、ルールを理解できていない選手も多いので、試合中もある程度の指示は必要と考える一方、複数のコーチから「ああしろ」「こうしろ」と言われると選手も混乱するので、指示を出してよいコーチを1人だけ決めるのが合理的ではないか。

交流戦に関しては、各スクールの伝統や蓄積もあるので、当該スクール同士の合意に基づいたルールで行えばよい。都大会にルールを設けることで、各スクールも交流戦のあり方について熟慮するきっかけになると思われる。

<アンケート結果に対して、各スクールの都大会小委員から寄せられた意見>

各スクールから派遣されている都大会小委員に対し、意見を求めた。

「タッチジャッジは中立の立場なので、選手への指示・指導は禁止する。またハーフタイム中はベンチに戻らずレフリーとグラウンドで待機する」べきという意見が出た。ルール・レフリング小委員会が今年4月に出した「20220425 東京都ミニラグビー交流大会ルール・レフリング事前伝達事項（中高学年）.pdf」の中に「タッチジャッジになったら、敵味方関係ありません。グラウンドに入ってプレーしている子どもたちが主役です。レフリーと一緒に最高のゲームを作り、子どもたちが最高のパフォーマンスを出せるよう、声に出したい気持ちをグッと心にしまっけて公平にふるまってください」という記載があるので、今回の提案には含めない。

「レフリーへの抗議厳禁」を盛り込むべきという意見も出た。「レフリーへの抗議は受け付けられないものの、質問は試合後、校長またはカテゴリー責任コーチがスクールを代表して当該レフリーまたは大会本部に対して行ってよい」というのが、最近の校長会議での議論の流れになっているものの、まだ明文化されていないことから、この部分については校長会議での議論の成熟を待ちたいと思う。

「子供たちに能力差があり、大人の指示が有効な場合もあるとは思いますが、それは練習の場でやることだと思います。試合で指示を与えなければならない状況にあるのだとしたら、その時間(試合)までに準備が出来なかったコーチの責任」「試合は子供たちのものです。子供たちは勝手にプレーします。考えます。成長します。大人たちは安全な環境を提供することに徹すればいい」という意見も出た。

一方、「本件はルールでなく、マナーの問題とされます。本件をルールで解決すると違反者への非難が強くなり、緊張が生じる為、ルール化する事は反対です」という意見も出た。「本取組の目的は大賛成です。ただし、サイレント「ルール」という規制ではなく行動変革を誘発するためのアプローチを実施し、自発的・持続的な行動変容で課題を解決することができればベストだと思います。大人も、子ども達同様、自分で考えて行動し、その姿を子ども達に見せていきたいです。そこでどのような取り組みをすれば良いのか、校長会の皆さんでご相談して参りたい」。

①コーチや保護者にラグビー憲章を基本とした啓発活動(研修など)を繰り返す。

(別件ですが：研修では、ラグビーのルールもしっかり学び、子どもたちに質の高いアドバイスができるよう大人に学びの機会があるとよい)

②試合後のコメント/指導を、スクール毎に指導をする前に、

試合後両校のコーチと子ども達で行っているアフターマッチの中で、より深く、スクールの垣根を超えて行う。東京都のコーチのみんなで、東京都の子ども達を育てるという、現在のミニラグビー校長会の活動方針をより意識付けできる。お互いのコーチから様々な学びを得ることもでき、多くの人から見られていることを意識するため、自然と自らの立ち居振る舞いに気をつけることができるようになる。

③②のアフターマッチの中では、子ども同士のみならず、「子ども達から」コーチやレフリースターへのコメントももらう。年齢、立場問わず、ラグビーを愛するみんなでリスペクトし合い、信頼関係を築きたい。子どもたちの素直な言葉から、大人が学ぶこともとても多いはず。

④英国系をはじめとする海外のラグビースクールで取り入れられている、楽しいマナー促進ポスターを真似て作り、掲示する。

クスッと笑え、冷静さを取り戻すことができ、各々の心にゆとりを生み出し効果的」という意見だった。

- ・「サイレントルール」の趣旨には基本的に賛成します。

- ・コーチや保護者の指示がなくても、子ども達が自律的にプレー出来ることを理解するチャンスになると思います。

また、コーチ陣は子ども達の理解度を再確認してコーチングを見直す切っ掛けになると思います。(保護者も同様。)

- ・高学年は全く問題ないと思いますが、中学年や低学年では、その場での指導的な声掛けが有効なこともあると考えますので、適用学年を全学年とするかについては、柔軟に考えても良いのではないかと思います。

- ・何をもって声出しを規制するかの線引きが不明確だと、褒める言葉にプラスして指示が含まれていたり、声援の中に含まれる言葉をネガティブなものか、指示的なものかの判断が不明確になる恐れもあるので、その運用を客観的に管理する仕組みを作ることも必要であるように思います。

- ・そのための仕組みの一例として、子ども達がナイスプレーをした場合に褒める声掛けがとても大事だと思いますので、プレーヤーに『ナイスプレー!』『ナイスタックル!』等の声掛けを行うために『グッドコーチングBOXまたはエリア(対象人数2名から3名)』を設け、自チームから選定して試合中の良いプレーに対してリアクションを行い、その声掛けを聞いて保護者や他コーチ陣は拍手を行い共感を表現する』ような試みができるとう良いと思います。

- ・ただ、「サイレントルール」を導入しなければならないような状況があること自体には違和感があります。

ルールを導入する以前に、コーチ・保護者等の子ども達を取り巻く大人に対して、子ども達のプレーを見守ることがなぜ大切なのか、ネガティブな声援の悪影響等についての啓蒙も必要と思います。

但し、これは多様な価値観があると思いますので、なかなかコンセンサスが取れないかもしれません。

- ・「サイレントルール」をすぐに全面導入することを急ぐのではなく、大人達への啓蒙を並行して行い、このような試みを導入する大会をいくつか経た上で、全体意見を収集してから都大会としてどうしていくかを決めていけば良いと思います。

- ・良いプレーに対しての声がけなどは、試合後でもできるのではないかと思います。「ナイスプレー」と「拍手」だけでよいのではと思いました。

・中学年（3年生4年生）コーチから、ルールやポジショニングの理解不足についてですが、これは、レフリーとタッチジャッジに任せるべき事かなと思います。

・レフリーの判定への異議に関して、どの様な類いの異議なのか分かりませんが、もし可能であれば、レフリー&タッチジャッジは、自チームから出さない様にすれば判定への異議が減るのかなと思いました。

人員的に、タッチジャッジは難しいかもしれませんが、可能であれば、レフリーは第三者チームのレフリーにお任せするのが良いかなと思いました。

<参考としたラグビーでの事例>

◎2017年7月 菅平ミニラグビー・ジャンボリー交流大会参加チームへの注意事項

- ①試合中の選手への指示・指導を一切禁止いたします。（ハーフタイム中は除く）。但し低学年のインサイドコーチからの建設的な指示・指導は認めるものといたします。
- ②レフリーへのクレームは厳禁です。
- ③タッチジャッジは中立の立場なので、選手への指示・指導は禁止いたします。またハーフタイム中はベンチに戻らずレフリーとグラウンドで待機願います。
- ④ベンチエリアは、大会当日に各グラウンド本部にて通知いたしますので、厳守願います。
- ⑤各チームのセーフティアシスタントも指定のベンチエリアで待機願います。

◎2017年8月の体育文化協会杯北海道ジュニアラグビー大会（幼児から中学生）

Let Kids Be Kids

先の2月に行われた第9回ヒーローズカップ決勝大会（ミニラグビーの全国大会）におきまして「ベンチ及び観覧席からの指示の一切の禁止」という施策が実施されました。ラグビーというスポーツが持つ、キャプテンシーの重要性とゲーム中、選手自身が判断し、プレーするという主体性を育むための取り組みです。

そこでこの度、体育文化協会杯選手権大会におきましても子供たちのより良い成長を促すためにヒーローズカップに準拠した運営を行いたいと思います。

具体的には、

- ①実施するカテゴリーは高学年と中学生とする
- ②ゲームサポートするスタッフからのゲーム中の指示の禁止
尚、ハーフタイム中はこの限りではありません。
- ③観戦される関係者、保護者からの指示の禁止
素晴らしプレーには敵味方、隔てのない称賛をお願いします。
- ④エリア内に入れる人数制限
サポートスタッフは4名までとします（監督、記録係、ウォーター、SA）
リザーブ選手以外の入場を禁止します。
- ⑤決められたエリア内でのサポートと応援 ※別紙グラウンド図参照

ゲーム中、スタッフ、選手は置かれたマーカー内に留まってください。

関係者、保護者のグラウンド内での応援は禁止します。

⑥タッチジャッジの中立性の厳守

タッチジャッジからはルール・安全に関する指示以外行わないでください。

以上の施策に反する行為について、特に罰則は設けませんが、目に余る行為があった場合は大会実施要項に基づき、退場していただくことがあります。

タッチライン際の大人たちへ



ラグビーは試合になれば選手がすべてを判断してプレーするスポーツです。だからこそ、教育的価値が高いと認められているのです。コーチの仕事は選手が自分達で判断してプレーできるように育て、導くこと。親や観戦者はそれを温かく見守る。それがラグビーです。

近年、ラグビー王国ニュージーランドですら、子どもたちの試合での野次や罵声の問題になっています。現状を憂い、「Let Kids Be Kids」というキャンペーンが行われています。子どもは子どもでいさせてあげてほしい。ミスを叱り、レフリーに文句を言うのではなく、その奮闘をサポートし、楽しい思い出を残してあげてほしい。そんな願いが込められています。

子どもたちはボールを持って走り、パスし、タックルすることが楽しくて仕方がないのです。仲間と協力して戦い、試合が終われば相手チームと友達になる。それは美しい思い出になります。その記憶の中に、ひどい言葉を刻みつけないでください。子どもたちは大人の態度を見ています。子どもたちの自主性を重んじ、レフリー、相手チーム、両チームのサポーター、すべてをリスペクトしながら、子どもたちをサポートしてください。

それがラグビー精神なのであります。

ラグビージャーナリスト 村上 晃一 氏

◎2022年5月22日の日野市ラグビー祭

R&Bラグビークラブから事前に

「試合中、コーチ、保護者は声を発しないことにチャレンジしてください。目的は4つ、

- ・子どもが試合に集中できるようにするため。
- ・試合に出てない子も試合に集中させるため。コーチがしたいアドバイスを控えの子どもを介してさせると試合を見るようになります。
- ・試合中の子どもたちの会話、プレーをよく観察するため。
- ・暴言を排除するため。

」という呼びかけがあった。

比較的守られているスクール、あまり守られていないスクールがあり、スクール内への落とし込みに濃淡が見られた。例：コーチによる「出ろ、出ろ」「パス！」

◎スティーラーズカップ2022

コベルコ神戸スティーラーズが2022年6月11日（土）、12日（日）、小学生6年生大会「スティーラーズカップ2022」を開催し、兵庫県下の16スクールが出場。選手の主体性を発揮できる環境を提供し、中学校進学後もラグビーを続けるきっかけ作りが目的。

■大会特別ルール：

- ①監督・コーチは大会期間中に選手を怒る事や指示をする事を禁止します。
- ②上記のルールを違反した場合は監督・コーチを退場処分とする可能性があります。

<https://www.kobesteelers.com/news/event/2022/06/2022-10.html>



◎2021. 12. 19 サイレント・リーグ・オブ・ラグビー滋賀

サイレント・リーグとは、大人がいつさい口出しせず、子どもたちが自分たちで考え、問題解決をしながら、ウォーミングアップから試合にいたるまですべてを行う大会だ。2021年5月に始まり、12月に出場したのは滋賀県と京都府の4ラグビースクールの6年生チームと、4年生チーム。総当たりの勝ち点制でシリーズの順位を決める。

「多くの指導現場で大人の声に委縮する子どもたちを見ました。子供たちの声だけが響き渡るようにしたい。はがゆいこともあります。黙って見守っていると、子供たちから思わぬ声が出てきます。ミスをして自分たちで声を掛け合い、そのミスを取り戻す。プレーのミスは取り返せることに気づくのです。自分たちで考えた結果は身になります」

<https://news.jsports.co.jp/rugby/blog/loverugby/2021/12/post-2938.html>

◎英国やシンガポールのグラウンドで、保護者ら観客向けの看板（14歳以下の大会）



- 忘れないでください
- ・彼らは子どもです
 - ・これは試合です
 - ・コーチはボランティアです
 - ・レフリーも人間です
 - ・この試合は、6カ国対抗ではありません



2013年、シドニー郊外の中学生試合会場で

この会場に入場する全ての選手、コーチ、レフリー、役員と観客は、以下を含む豪州協会の行動規範（ガイドライン）に従わねばならない。シドニー・ジュニアラグビー協会

「すべきこと」

- ・選手が試合のルールに従うよう奨励してください
- ・自チーム、対戦相手にかかわらず、すべての好プレーに拍手を
- ・自分がしてもらいたいことを、他人に対して行いましょう
- ・模範的な行動をして、自分の行動に対する責任を受け入れてください
- ・言葉による虐待や身体的虐待を試合からなくすために、あらゆる努力を
- ・最も重要なことは、「子どもたちが楽園でプレーしている試合」を楽しむことです

「してはいけないこと」

- ・会場にいる間、選手、コーチ、役員と観客を罵倒、批判、脅迫、嘲笑、威嚇すること
- ・レフリー、アシスタントレフリーの判定に疑問を呈し、彼らの正直さや誠実さを疑うこと
- ・レフリーの指示なしに競技エリア内に入ること
- ・性別、障害の有無、民族、宗教を理由とした差別
- ・悪態をついたり、下品な言葉を使ったり、会場で誰かに嫌がらせをすること

どんな状況でも選手、レフリー、役員に対する悪態を容認してはならない。
豪州協会の行動規範（ガイドライン）を破る行為があれば、会場から退去を命じられるとともに、シドニー・ジュニアラグビー協会の競技委員長に報告されます。

◎ワセダクラブ ラグビースクール

- 試合中のお願い（ルール） -

- ノー・インストラクションズ・ルール -

コーチは選手たちにハーフタイムや試合後に考えさせる質問をしてもよい
しかし、試合中に指示を叫んではいけない

→適切なフィードバックを心掛けます←

- サイレント・サイドライン・ルール -

観客は両チームに拍手やポジティブな声援を行うことはよい
しかし、叫んだり呼びかけ指示したり、ネガティブな声援をしてはいけない

→子ども達のベストサポーターでいてあげてください←

ステークホルダーコード（抜粋）

（日本ラグビーフットボール協会コーチ委員会 JRFU Coaching Committee）

■保護者コーチコード

1. コーチング現場に親子関係を持ち込まない。
2. **自分の子ども**をひいきすることはあってはならないが、だからといって**厳しすぎるのも良くない**。なぜなら、親子間での厳しい叱責については他のコーチが意見を言えないだけでなく、他のプレイヤーもおびえてしまう可能性があり、チームの雰囲気が悪くなる可能性があるからである。



グラウンドに一步入ったら、親子関係は捨ててください。
すべての選手を平等に扱ってください（※言葉使いも）

『お父さんこえー（＝怖い）』

野球少年の長男（小学3年）が、学習塾で書いた作文のタイトルだ。

こんな書き出しだ。

「ぼくのお父さんは、こわいです。なぜなら野球で少し捕れなかっただけでお父さんは怒ります」

※朝日新聞2021年3月記事「僕のお父さんは、怖いです」より。

この記者は、息子が所属する少年野球チームでボランティアコーチをしていました。

ここまで読んで胸が痛くなったあなた、今ならまだやり直せます！

<今後>

スクールごと、あるいはコーチごとに考え方に差があるなかで、テストケースとして半年間やってみたうえで再検証し、本格導入するか否か、改善点はあるかについて、校長会議でさらに議論を深める。

その際は、

- ◎幼児・低学年のラグビーでは、バックコーチを置く場合はバックコーチ1人、置かない場合はベンチにいる交代指示者のコーチ1人のみ指示ができる
- ◎交流戦の応援ルールは対戦するスクール同士の話し合いで、その都度決める

という規定も加えるか、検討する。

また「保護者への啓蒙が大切」という意見はその通りだが、この役割は東京都協会ミニラグビー委員会や校長会議ではなく、日ごろ保護者に接している各スクールの役割と考える。

レフリーを対戦するスクール以外から出せるようにすることは、校長会議ルール・レフリング小委員会の中期的な目標となっている。ただし、なぜ対戦するスクールの片方からレフリーを出すことに決めたかと言えば、3年前の都大会まで「選手は両スクールとも集まっているのに、別のスクールが出すはずのレフリーが呼びに行くまで来ず、試合時間が大幅に短縮した」という事象が頻発したことにある。校長会議ルール・レフリング小委員会の不断努力の結果、都大会に出場するスクールのレフリーの意識は目覚ましく向上しており、遠からずレフリーを対戦するスクール以外から出せるものと確信している。

<他競技の事例>

◎バレーボール「監督が怒ってはいけない小学生バレー大会」

元全日本女子選手の益子直美さんが提唱し、2015年にスタート。

子どもたちに感想を聞いてみると「監督に怒られないと分かっていたから、いつもなら打てないアタックを打てた」「いつもはチャレンジしない難しいレシーブもできた」「思い切りプレーできた」「甘えずに、自分たちで考えて声かけをした」。

やっぱり **普段は怒られるからチャレンジできない**んだと思いました。ただ楽しいだけじゃなくて、自分たちで考える機会になったんだなど、びっくりしました。

<http://masukonaomicup.com/>

<http://masukonaomicup.com/concept/>

3つの理念
Three ideas

楽しむ!
参加する子供たちが、最大限に楽しむこと!

怒らない!
監督（監督/コーチ/保護者）が怒らないこと!

チャレンジ!
子供たちも監督もチャレンジすること!

「いや、怒ってませんよ」「あれは怒っているうちに入らない」「自分では怒ってないと思っていた」

指導者の方たちは、怒っている意識がないのです。どうしても指導する際には、熱く伝えてしまい、指導を受けている側は怒っているように聞こえてしまうのです。

◎サッカー「サイレントリーグ」

●メンバー決定、戦術、ウォーミングアップなど試合に関わる全てのことを子どもたちに委ねる

●試合の間、子どもがいるエリアに大人は入れない

●行き帰りの道中も、大人は「言いたい一言」を我慢する

かつて、Jリーグ名古屋で育成を担当した地域クラブの指導者が2019年から提唱。

<https://asia-big.com/silent-league/>

100%子ども主体のサッカー大会 **Asian LABO**

単純明快な3つの約束

企画の発想が単純なだけに、サイレントリーグには誰もが分かる単純明快な3つの約束が設定されています。

- ✓ 準備や片付けを自分たちで行う
- ✓ ウォーミングアップ・選手交代も自分たちで行う
- ✓ 指導者は一切口を出さない

◎中学生硬式野球リーグ「ポニーリーグ」

2019年に「SUPER PONY ACTION 2020」を発表。

怒声や罵声のある指導や応援を行った指導者や保護者に対してイエローカードを出す試みも導入。「大きな声を出してしか選手を動かさないんだったら、その指導者は能力がない、と自分で言っているようなもの。選手には裏付けをとって、しっかり説明する。そういう文化になっていると思います」と清瀬武蔵野ポニーズの八景千秋監督。

[SUPER PONY ACTION 2020 \(sakura.ne.jp\)](https://sakura.ne.jp/)



Coaching Standard Limit

怒声罵声のある指導・応援 … イエローカード制を導入(審判・球場責任者に発行権付与)
(人が不快と感じる声量・言動に対して発行する。)